

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 東成区

学 校 名 北中道小学校

学校長名 矢寺 勝彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・北中道小学校では、第6学年 47名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科においては全国平均より5.2ポイント上回った。算数科においては全国平均より4.0ポイント上回った。理科においては全国平均より0.9ポイント上回った。平均無回答率は国語科、算数科、理科、すべてで全国平均より下回っている。最後まで粘り強く取り組むことができていた。また、昨年度まで国語科を研究教科として「主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く物語文の指導」として国語科を中心に取り組んできた結果が出たと考えられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

全国平均より「言葉の特徴や使い方に関する事項」は7.1ポイント、「情報の扱い方に関する事項」は11.4ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」は1.8ポイント上回っている。日々、作文指導を行うなどした効果が出たと考えられる。「読むこと・聞くこと」は、3.2ポイント「書くこと」は、7.8ポイント「読むこと」は、3.1ポイントと全国平均より上回っている。国語科を中心として研究に取り組んできた成果が表われてきている。

〔算数〕

全国平均より「数と計算」で3.4ポイント、「図形」で1.2ポイント、「測定」で4.8ポイント、「変化と関係」で4.2ポイント、「データの活用」で6.3ポイント上回っている。算数科においても、主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く研究を進めるとともに、個別最適な学びにつなげ、基礎基本の定着を図っていく。

〔理科〕

全国平均より、「生命」を柱とする領域で0.1ポイント、「地球」を柱とする領域で1.4ポイント上回っている。一方「粒子」を柱とする領域で同ポイント、「エネルギー」を柱とする領域で1.5ポイント下回っている。国語科で積み重ねてきた取り組みを理科や他教科にも広げていけるように工夫して取り組みを進めていく。

質問調査より

「自分には、良いところがあると思う」に対する肯定的回答は81.6ポイントとなり大阪市平均、全国平均を下回り、まだ課題が残る。「将来の夢や目標を持っている」に対する肯定的回答は81.6ポイントで全国平均、大阪市平均を下回った。しかし、昨年度より10ポイント程度、肯定的回答が増え、キャリア教育を進めてきた成果が出てきたことがうかがわれる。

「読書は好きですか」に対する肯定的回答は、全国平均より大きく上回り、本好きな児童であ多きいる。「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対し、全くしないという回答が昨年度、全国平均の約3.5倍であったものが、2倍以下となり自ら学習しようとする姿勢に改善が見られる。

今後の取組(アクションプラン)

・大阪市学力向上支援チーム事業を活用し、スクールアドバイザーによる国語科・算数科の授業改善を行うとともに、今年度は、研究教科を算数科に設定し、算数科で外部講師を招聘したり、夏季には、その他外部講師による研修会も実施したりして、教員一人一人の授業力を高められるよう継続して研修を行っている。その中で、主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く指導法について研究を深めている。

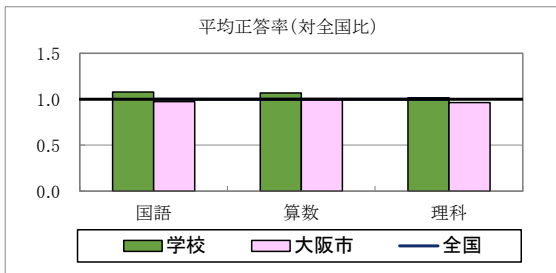
・意欲的に学習に取り組む児童を育てるために、自主学習（北中スタディ）に取り組み、家庭でも学習する児童を増やしていけるように指導を進めていく。

・子どもたちが、自分の思いや考え思いを、表現できる場の設定を工夫し、話し合い活動を充実させていく。

【 全体の概要 】

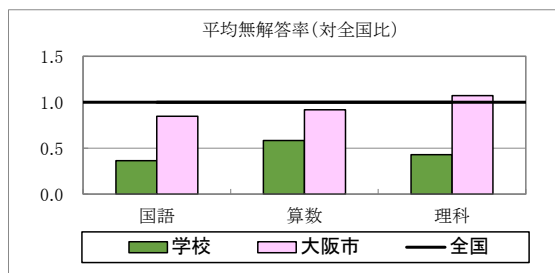
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	72	62	58
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.2	2.1	1.2
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



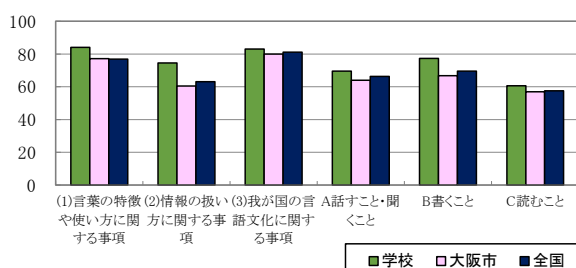
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	84.0	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	74.5	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	83.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	69.5	64.0	66.3
B 書くこと	3	77.3	66.7	69.5
C 読むこと	4	60.6	56.9	57.5

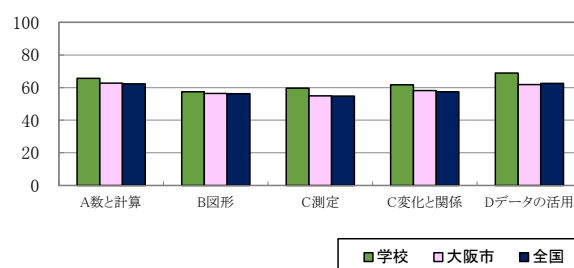
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	65.7	62.7	62.3
B 図形	4	57.4	56.4	56.2
C 測定	2	59.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	61.7	58.2	57.5
D データの活用	5	68.9	61.9	62.6

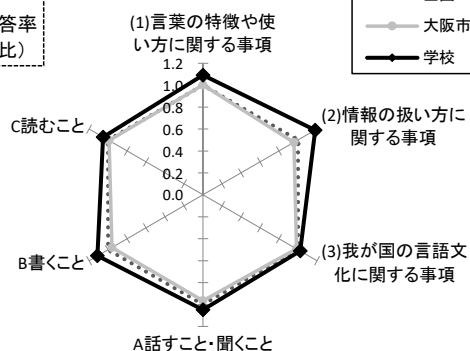
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



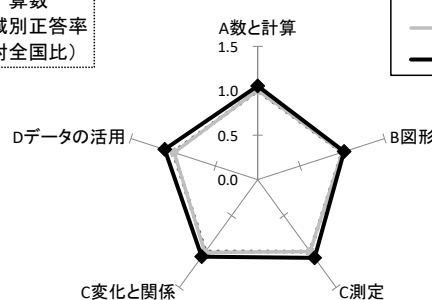
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

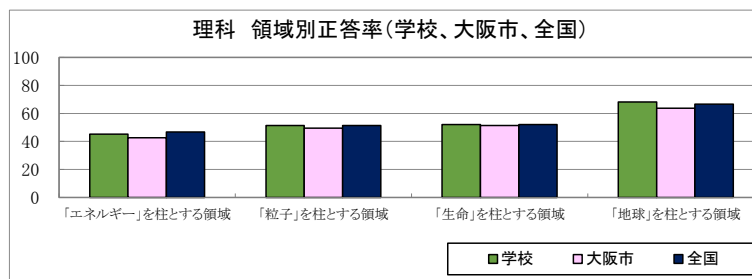


算数
領域別正答率
(対全国比)

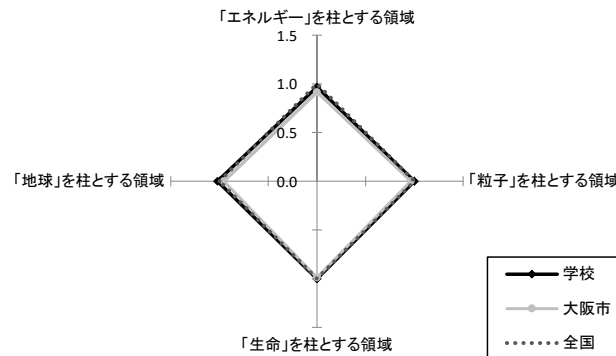


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	45.2	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	51.4	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	52.1	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	68.1	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

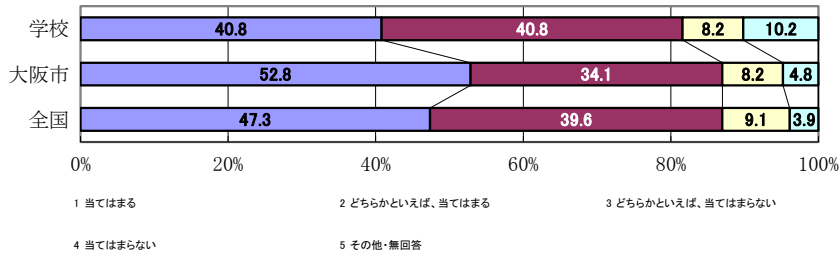
質問番号

質問事項

5

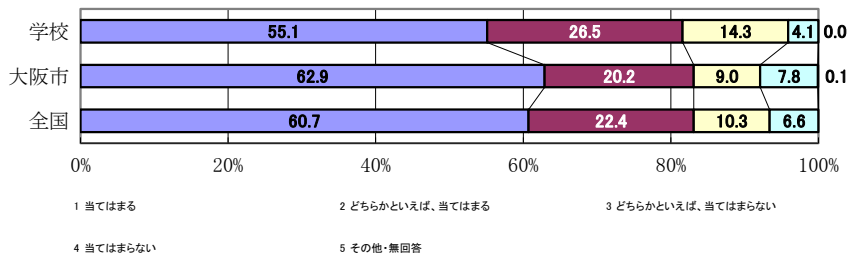
自分には、よいところがあると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



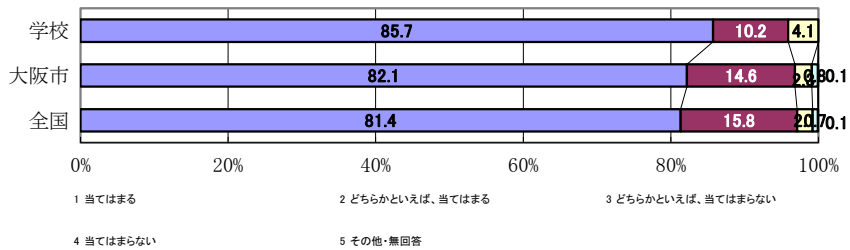
7

将来の夢や目標を持っていますか



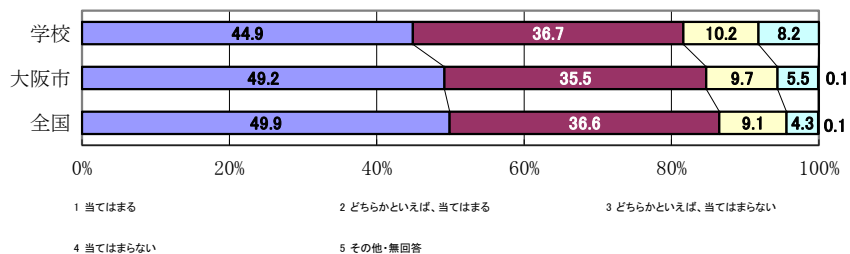
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



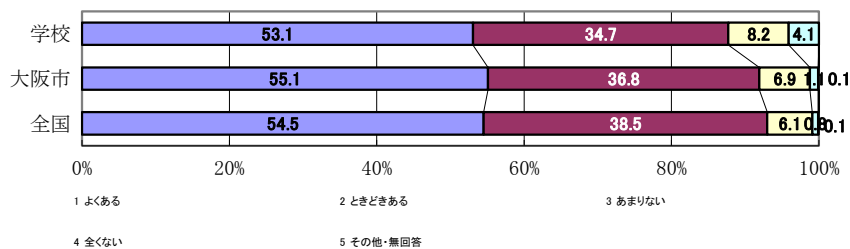
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



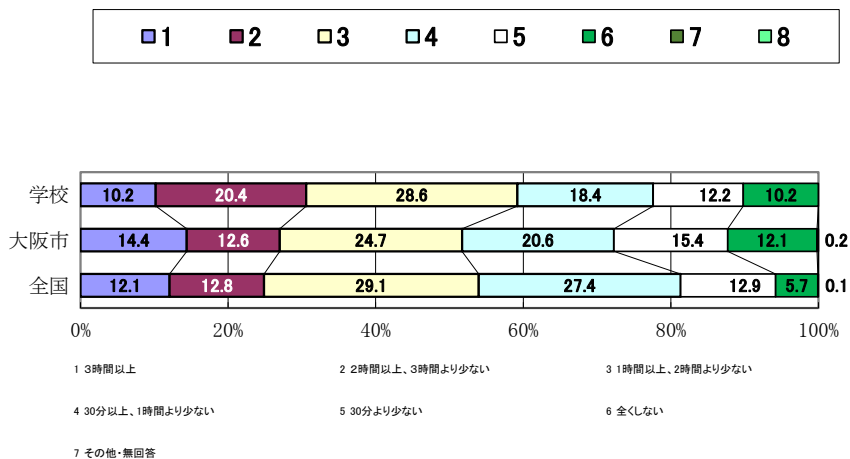
児童質問より

質問番号

質問事項

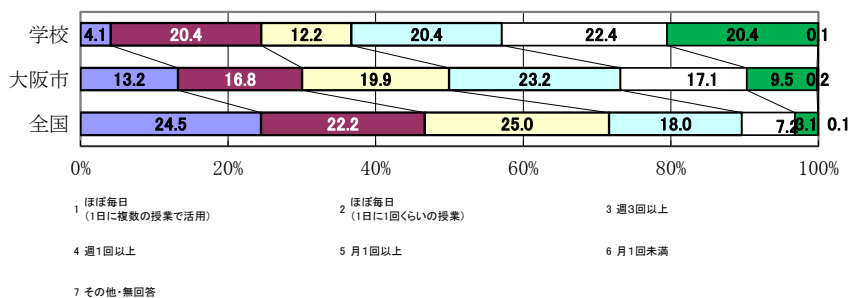
17

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



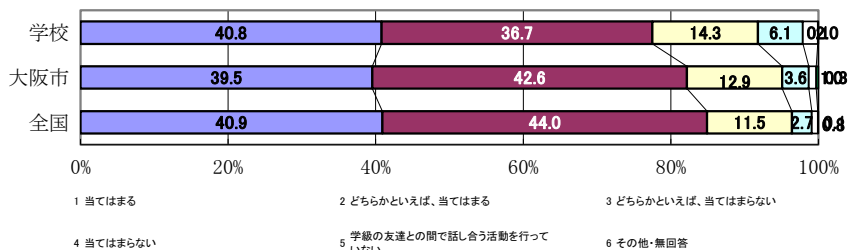
28

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



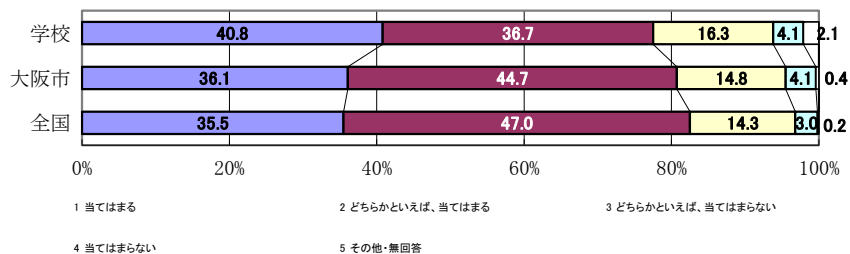
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



37

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか



43

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

